

『嘗試集』の第二編について

王 艷 珍

1. はじめに

1917年に起こされた文学革命は、中国の「五四」新文化運動の一つの重要な内容をなしている。それは当時の文章美、韻律美のみを追う無内容な旧文学に反対し、白話文（口語）を用い、社会の実状に基づいて、典拠によりかからずに、自分自身の文をつくることを提唱した。文学革命は胡適や陳独秀などが中心となった。胡適（1891-1962）は小説、劇曲などの旧白話文学に着目すると同時に、現在の白話詩を創作することに力を尽くした。1917年の2月、劉半農・沈尹黙らの支持を得て、胡適は『新青年』第2巻第6号に白話詩八首を発表した。ついでに、1920年3月に上海亞東図書館によって詩集『嘗試集』を出版している。これは同年9月に再版され、六首の詩を加え、翌1921年第三版が再版と同じ内容で出版され、その後1922年10月に増訂四版が出版された。

『嘗試集』の初版は第一編と第二編に分けられ、第一編は1916年7月から1917年9月まで、北京に帰国する前のアメリカ留学中に作られた白話詩である。『嘗試集』の第二編は1917年から『嘗試集』の初版が出版されるまで、北京に帰国した後に作られた白話詩である。1916年7月以前のアメリカ留学中、胡適が作った文言詩は「去国集」に収録され、『嘗試集』の巻末に付けて第一編と第二編と併せて出版されている。『嘗試集』初版の二年後、1922年10月の増訂四版は三つの編に分けられた。第一編は八首が削除され、十四首を収録している。第二編は十六首が削除され、「許怡蓀」と「一笑」を第三編に移し、十七首を収録している。第三編は移った二首と1920年9月から1922年10月までに作られた新詩十五首と共に、十七首を収録している。

中国大陸における評価によれば、『嘗試集』は文言詩から新詩に変わる過程ものだとされ、その詩自身の芸術的価値は高くないとされる。しかも胡適の詩につ

いて誰も詳しく取り上げて詳細な研究を行っていない。また台湾における胡適の詩に関する評価は、中国伝統詩から継承したところがあるという考えにとどまる。文学革命の期間、胡適は中国伝統詩から継承しただけではなく、白話で新詩を創作することに力を入れた。そのため、胡適は中国伝統詩から継承すると同時に、西洋詩法も新詩の創作時に使用していると思われる。

本論では安徽教育出版社の『胡適全集10』¹の『嘗試集』第二編の詩を取り上げ（第三編は別稿にゆずる）²、背景を踏まえて、「胡適之体」の詩の形成の過程を考察してみる。胡適の白話詩の作法により、押韻の問題を尺度に入れずに考察する。

第一の尺度——詩のリズム

第二の尺度——「句」と「行」の規則

第三の尺度——西洋詩法の応用

第一の尺度で『嘗試集』の第二編の詩を取り上げ、中国伝統詩のリズムと比較し、如何に中国伝統詩から脱却しているかを考察する。

第二の尺度の「句」と「行」の規則に関しては、中国伝統詩と違い、西洋詩には種種の形式があり、その中で特に西洋詩の行を跨ぐことについて考える。

第三の尺度の西洋詩法の応用とは範囲が広いので、基準が決められない。しかし中国の新詩の発展において、西洋詩の影響は無視できないものである。五四運動時から、胡適も含めて中国の詩に新しい生命を注ごうとする詩人達は西洋詩を翻訳しながら、各種の西洋詩法を学び、模倣して新詩を作ってきた。この理由に基づき、『嘗試集』の新詩を分析するとき、西洋詩法の基準を、特定の国、韻律、形式に限定せず、中国の伝統的な詩と異なるものが新詩の中に表れたら、その異なるものと西洋詩との関係を明らかにしてみたい。

2. 『嘗試集』の第二編

第二編の中に、胡適の訳詩を入れている。胡適は訳詩において再創作したと思われる。胡適は「再版自序」³で「関不住了」⁴という訳詩が自分の「新詩」が成立した紀元だと書いている。しかし小論では、胡適の訳詩を取りあげず、第二編の詩を三つの尺度に基づき、当時の背景を踏まえて考察する。

第二編の詩は明らかに五言、七言の詩の形式を破り、自由な詩体で作られている。「再版自序」で胡適は、「関不住了」の後に作った詩はとても自由で、とても

自然で、自身の「新詩」が進化した最高の一歩だと述べている。また「これこそ私がずっと作りたかった『白話詩』だ。二年前に作った詩を振り返って見れば、例えば……ほんとうに隔世の感がある。」⁵と嘆じている。胡適は中国に帰国してから、新詩についての提唱及び創作において特に『新青年』の友人の支持を得た。新詩は内容だけではなく、形式にまで創作に関する理論が補充され、新しい詩人が増えることに従い、様々な新詩も増えていく。従来文言文に慣れた胡適は、白話文において知識人の彼らが自由自在に使えないことに気付いていた。もっと白話らしい詩を作ろうという考え方で、胡適は第二編の詩を試作していると思われる。実験の精神で、大胆に中国の伝統的な詩の形式を破り、彼の「作詩如作文」という旨を徹底的に実行した時期だと考えられる。

『嘗試集』の「四版自序」⁶で、第四版の『嘗試集』の中において、第二編の詩作の十六首を削除し、また「許怡蓀」と「一笑」を第三編に入れたと述べている。第四版の第一編は八首の詩が削除されたことと比べ、第二編は十六首を削除されたので、第一編の詩より二倍の詩が削除されたと分かる。第一編の詩より第二編の詩が重視されていることは、胡適が述べた通りで、彼が自身で作りたい詩は第二編の詩である。第二編の詩の中で、代表的な詩作、「鴿子」⁷、「人力車夫」⁸、「我的兒子」⁹、「一顆遭劫的星」¹⁰という四首の詩を選んで考察してみたい。「鴿子」と「人力車夫」は二首とも胡適が帰国した後、1917年の作であり、「我的兒子」、「一顆遭劫的星」は二年後の1919年に創作された。その二年間の間に創作された新詩は大部分第二編に収録されている。1917年の詩作と1919年のと比較してみて、二年間で胡適の新詩が如何に進んでいるか、を分析する。そして、「人力車夫」、「我的兒子」は第四版では削除された。「鴿子」、「一顆遭劫的星」と比較して、それらの削除された理由を考察する。

2.1. 第二編の詩のリズム

胡適は五言詩、七言詩の形にこだわらずに白話詩を作った、と述べている。この節では、一つ一つの詩を見ると、胡適の個人的な特色が見えにくいと思われる。選んだ第二編の詩を一つずつ取り上げ、中国の伝統的な五言詩、七言詩のリズムと比べるのではなく、四つの詩を一緒に取り上げて比べる。まず比較のため取り上げる二つの詩は、中国の伝統的な五言詩七言詩の規則にあてはまる作品である。

I、紅豆一生南国，春来一發幾枝。

○○—△△△ ○○—△△△

愿君一多采擷，此物一最相思。

○○—△△△ ○○—△△△。

(王維「相思」)¹¹

II、煙籠一寒水一月籠沙，夜泊一秦淮一近酒家。

○○—○○—△△△ ○○—○○—△△△

商女一不知一亡國恨，隔江一猶唱一後庭花。

○○—○○—△△△ ○○—○○—△△△

(杜牧「泊秦淮」)¹²

上に取り上げた詩は中国人によく知られる伝統的な詩である。先に「鴿子」、「人力車夫」、「我的兒子」、「一顆遭劫的星」という四つの詩の中で、五言の句を出して比べる。「我的兒子」は18行で構成され、その中に2行の五言の句が有る。

①那果一便是你

○○—△△△

②那樹一便是我

○○—△△△

「我的兒子」18行を分析した結果は、伝統的な詩と同じリズムの五言の句が九分の一を占めていることになる。「鴿子」、「人力車夫」、「一顆遭劫的星」は一行で二句以上が書かれている行の中で、五言の句が読点で区切られた行も有る。以下は「鴿子」、「人力車夫」、「一顆遭劫的星」の中で、一行の中で区切られた五言の句が有る行を取り出す。

③有一群一鴿子，在空中一遊戲。

●○○—△△ ●○○—△△

④忽地里，翻身映日，白羽一襯青天，十分鮮麗！

○○—△△△

「鴿子」

⑤客問車夫，“你今年一幾歲？拉車拉了多少時？”

●○○—△△

⑥車夫答客，“今年十六，拉過三年車了，你老一別多疑。”

○○—△△△

⑦客告車夫，“你年紀一太小，我不坐一你車。我坐你車，我心慘淒。”

●○○—△△ ●○○—△△

⑧車夫告客，“我半日沒有生意，我一又寒一又飢。

●—○○—△△

⑨我年紀小拉車，警察一還不管，你老一又是誰？

○○—△△△ ○○—△△△

「人力車夫」

⑩仍舊是熱，仍舊一沒有風，

○○—△△△

「一顆遭劫的星」

以上の分析を見ると、「鴿子」、「人力車夫」、「一顆遭劫的星」の中では、五言の一句で構成される一行が見えないが、一行の中で、読点で区切られた五言の句が有る。「鴿子」は6行の中で、2行に五言の句が有り、④の五言の句だけが伝統詩と同じリズムであり、伝統的な五言の句が六分の一を占めていることになる。「人力車夫」は8行¹³の中で、5行に五言の句が有り、⑥と⑨の五言の句が五言の伝統詩と同じリズムであり、伝統的な五言の句が四分の一を占めている。「一顆遭劫的星」は20行の中で、一行に⑩の五言の句だけが五言の伝統詩と同じリズムであり、伝統的な五言の句が二十分の一を占めている。この四つの詩が作られた時間から見ると、「鴿子」と「人力車夫」は1917年に作られた詩であり、「我的兒子」と「一顆遭劫的星」は1919年に作られた詩である。1917年中国に帰国した後に、胡適はその詩作で伝統的形式を破ったが、しかし一行の中での五言詩の影響はやはりあると分かる。ただ、1919年の詩作ではますます伝統的五言詩の影響が少なくなると言っても良いであろう。

また、「你今年幾歲?」、「我又寒又飢」などという五言は伝統詩の五言のリズムと違ふし、中国現代語の疑問文、陳述文が使われている。伝統詩の五言のリズム「○○—△△△」を彷彿させる「那果一便是你」、「你老一又是誰?」、「仍舊一沒有風、」などの五言の句は、白話文の言葉で組み立てられた句だと見られる。

次に七言の句がある詩を見ると、「鴿子」、「我的兒子」、「一顆遭劫的星」の中で七言の句が有る。「鴿子」は6行の中で、七言の句は1行が有る。「我的兒子」は18行の中で、七言の句は3行が有る。「一顆遭劫的星」は20行の中で、七言の句は2行が有る。以下はその三つの詩の中から、取り出した七言の句である。

- ⑪看他們—三三—兩兩，
 ○○○—▲△—△△ 「鴿子」
- ⑫我實在—不要—兒子，
 ○○○—▲△—△△
- ⑬“無後主義”—的招牌，
 ○○○○ —◎△△
- ⑭于今—掛不起来了！
 ○○—▲▲△△◎ 「我的兒子」
- ⑮忽然—一大塊—黑雲
 ○○—○○●—△△
- ⑯那塊雲—越積越大，
 ○○○—▲△△△ 「一顆遭劫的星」

そして、一行の中で、読点によって区切られた七言の句も取り出して見ると、「人力車夫」の中の行で、読点によって区切られた七言の句は2行が有り、第四版の『嘗試集』で「人力車夫」の削除された最後の行に区切られた七言の句も有る。また、「鴿子」にも一つの行の中で、七言の句が有る。

- ⑰雲淡天高，好一片—晚秋天氣！
 ○○○—▲△△△ 「鴿子」
- ⑱客問車夫，“你今年幾歲？拉車—拉了一—多少時？”
 ○○—○○—△△△
- ⑲車夫告客，“我半日—沒有生意，我又寒又飢。
 ○○○—▲△△△ 「人力車夫」
- ⑳客人一點頭—上車說，『拉到內務部西！』
 ○○—○○—△△△ (『新青年』の「人力車夫」の最後の行)

以上の分析した結果により、「鴿子」は6行の中で、⑪と⑰という2行の中に七言の句が有るが、七言の伝統詩と同じリズムではない。「人力車夫」は8行の中で、⑱、⑲、⑳という三つの行で七言の句が有り、⑱と⑳は七言の伝統詩のリズムと同じである。「我的兒子」は18行の中で、⑫、⑬、⑭という三つの行は七言の句で、七言の伝統詩のリズムと同じではない。「一顆遭劫的星」は20行の中

で、⑮、⑯という二つの行は七言の句であり、七言の伝統詩のリズムと違う。「人力車夫」だけで、伝統的な七言の句が四分の一を占め、他の三つの詩には伝統的七言詩のリズムからの影響がないと考えられる。しかも、「人力車夫」の⑮と⑯の句を見ると、七言詩のリズムと同じに見えるが、しかし⑯は自然な現代語で書かれているので、伝統的七言詩の影響というより、胡適が白話文を自由自在に使えるようになったため、偶然に七言詩のリズムと同じとなった白話文を使用しただけと考える。

そのため、「鸽子」、「人力車夫」、「我的兒子」、「一顆遭劫的星」という四つの詩のリズムの分析を通して、第一編の詩作のリズムと比べると、詩作に占める五言、七言の伝統詩のリズムが少ないと言える。五言、七言の句が有っても、ごく普通の白話文が使われている。ここにおいて、胡適は新詩の創作において自分自身も変化を感じ、中国伝統詩のリズムの継承から白話文風のリズムに移行していると思われる。

2.2. 第二編の「句」と「行」の規則

中国伝統詩では、行は句の単位として見られ、行の末に来るとその句の終わりを意味する。つまり、伝統詩の句は行を単位とし、一句は一行で表わす。それは伝統詩法の大原則である。また、行の長短は揃わなければならない、詩の中で、行と行の字数が長かったり、短かったりしない。一行は一つの場面或いはことを言い、次の行は前の行と意味がつながっても、もう一つの場面或いはことを書くという詩法で、即ち一行は一つ独立の文である。例えば、柳宋元の『江雪』は次のようである。

千山鳥飛絶，
万径人踪滅。
孤舟蓑笠翁，
独釣寒江雪。

第三句と第四句とは意味がつながり、二つの行に分けているが、一つの句として見るができる。それでも、各行は相対的に独立してあるし、分けて読むことがいけないとは思われない。

西洋詩の中で、行を跨ぐのはよくあることである。西洋詩でよく見られる現象

は、例えば、行の途中から始まり、また読点を打たないまま次の行に行くものである。中国の旧詩なら一句に納められる内容が西洋詩で3、4行に跨る句ということになる。中国伝統詩と比べ、新詩の一つの特色として、確かに西洋詩の影響があると言われるが、第二編の詩は行と句の関係が変わったであろうか。この節で第二の尺度の「句」と「行」の規則から「鴿子」、「人力車夫」、「我的兒子」、「一顆遭劫的星」を考察してみる。その前に先に戴望舒が1927年夏作った「雨巷」¹⁴の一段を見る。

撑着油紙傘，獨自
彷徨在悠長，悠長，
又寂寥的雨巷，
我希望飄過
一個丁香一樣地
結着愁怨的姑娘。

その一段の詩の第三行の読点だけを残して、他の句読点を取り、行を作らずに見ると、「撑着油紙傘獨自彷徨在悠長悠長又寂寥的雨巷，我希望飄過一個丁香一樣地結着愁怨的姑娘」という散文のような文になる。つまり、もともと見慣れた語句を行分けすると、未知らぬ感覚を人に与える。つながっている文は分けられ、その間に距離が出てき、空間を作ることになる。読者には更に理解と想像の余地も出てくる。

第一編の詩を「句」と「行」の規則に基づき、分析してみた。『嘗試集』の第一編の詩作は、胡適が「句」イコール「行」であった中国伝統詩の規則を無視できない時期の創作だと言える。旧詩を作った胡適たちにとっては行を跨ぐという詩法が容易ではなかったと思われる。胡適は第二編の詩作において、行を跨ぐことができたであろうか、「鴿子」と「人力車夫」（この二篇は『新青年』の初出も見）、「我的兒子」、「一顆遭劫的星」を当時の背景を踏まえて分析する。

まず『新青年』第4巻第1号（1918.1）に同時に発表された「鴿子」、「人力車夫」を分析してみる。『胡適全集10』の「鴿子」、「人力車夫」と比べてみると、「四版自序」で胡適が述べた通りで¹⁵、「鴿子」は四文字を改めたということが分かる。また、胡適は言及していないが、「人力車夫」の最後の句が取りさられている。「人力車夫」は胡適が当時の中国の社会現状に直面し、社会底辺の労働者

を描写したものであるが、『嘗試集』の第四版に収録されていない。また、第一編の、「蝴蝶」、「他」、「贈朱経農」、「生査子」は『新青年』に発表された時、圈点を使っていた。しかし『新青年』初出の「鴿子」と「人力車夫」を見ると、現在の句読点の使いかたとほぼ同じである。

「鴿子」の「句」と「行」を考察してみる。『胡適全集10』の「鴿子」と『新青年』で発表された「鴿子」と違うところは最後の四文字で、括弧の中の四文字は『新青年』で発表された四文字である。

「鴿子」

雲淡天高，好一片晚秋天氣！

有一群鴿子，在空中遊戲。

看他們三三兩兩，

回環來往，

夷猶如意，——

忽地里，翻身映日，白羽襯青天，十分鮮麗！（鮮明無比！）

「鴿子」を読むと、中国伝統詩にはない表現形式において、鳩の楽しみを詳しく描写していると感じられる。旧詩は一句を一行で表わし、一行で一つの情景を表す。しかし「鴿子」の第三行から最後の行まで、鳩たちが遊んでいる情景が書かれている。すなわち一句が行を跨って分けられていることはないが、一行一句で構成される内容（第三行目から第五行目まで）と一行四句で構成される第六行の内容は、一つの情景或いは場面を分けて描写している。そして括弧の「鮮明無比！」の代わりに、「十分鮮麗！」に変えたことで、胡適が単に白話文を使うことだけではなく、その使用の選択についても力を入れたことが分かる。

そして、「鴿子」を読んで、鳩が自由に飛ぶ回る楽しみを感じ、胡適の喜ばしい気持ちも伝わってくる。また、『新青年』第4巻第1号には同時に沈尹黙の「鴿子」、「人力車夫」も載せられている。同じタイトルの詩でも、内容及び形式が違う。胡適の「鴿子」と沈尹黙の「鴿子」と比べて見ると、「空中飛着一羣鴿子，籠裏關着一羣鴿子，街上走的人，小手巾裏還兜着兩個鴿子。……」という沈尹黙の「鴿子」は散文のような詩である。胡適の「鴿子」がより良い詩であると感じられる。

胡適は1919年10月10日「談新詩」¹⁶を発表した。主に「詩体の解放」を強調し

たものであり、旧詩のように字数や平仄とか押韻という不自由な規則を重視すると、新詩を創作できないと述べている。胡適は旧詩の形式を破り、旧詩の韻律などの規則から努力して脱却しようとした。1917年に作った「鴿子」だけではなく、だいたい第二編に収められた詩は注目を集め、評価された。この「談新詩」は胡適が実践した創作理論とも言える。即ち「談新詩」の趣旨は「鴿子」などの第二編の詩を作った創作理論だと考えられる。

しかし、「鴿子」は自由な詩体で描写されているが、胡適は「再版自序」で「鴿子」がまだ詞曲の味わいと韻律を脱出できていない⁴⁷、と述べている。「鴿子」という詩の中の言葉を見ると、「雲」、「淡」、「天」、「高」、「夷猶」、などの言葉は白話文というより、文言文の言葉で、単文字の言葉が多くなると、自然に詞曲の味わいと韻律が出てくると思われる。前節で「鴿子」のリズムを分析した結果は、伝統的な五言、七言の詩の影響がないと考えられ、数句が行を跨って書かれている。詞曲も詩句から形成され、字数が決まっているが、五言の句、七言の句だけではない。胡適は五言の句、七言の句を避けても、言葉の使用法まで気を付けないと、詞曲のような味わいを持つ新詩になりがちだと考えていたのであろう。

『嘗試集』に収録された時、「人力車夫」は最後の句を取りさられた。括弧の中は取りさられた句で、ここに全文を挙げて見る。

「人力車夫」

“車子！車子！”車来如飛。

客看車夫，忽然心中酸悲。

客問車夫，“你今年幾歲？拉車拉了多少時？”

車夫答客，“今年十六，拉過三年車了，你老別多疑。”

客告車夫，“你年紀太小，我不坐你車。我坐你車，我心慘凄。”

車夫告客，“我半日没有生意，我又寒又飢。

你老的好心腸，飽不了我的餓肚皮，

我年紀小拉車，警察還不管，你老又是誰？”……

(客人點頭上車，說『拉到內務部西！』)

「人力車夫」を見ると、明らかに二人の会話で構成された詩である。行を跨る句は見えないが、しかし第六行から第八行まで、車夫一人の話を三行に分け、一

行で終わらせていない。だが、車夫の話を三行で表しても、一行で一つの意味を表す。例えば第六行の「車夫告客，“我半日没有生意，我又寒又飢。”と第七行の「你老的好心腸，飽不了我的餓肚皮，」は意味が繋がっているが、別々のことを話している。つまり、一行で一つの意味を表し、数句で構成される。

「……」は最後の「客人點頭上車，說『拉到內務部西！』」の代わりに、付けたと思われる。客と車夫の会話を通し、社会の現実を描写している。最後に客は車夫の厳しい生活に直面し、人力車に乗っていくという解決方法により、「……」という省略記号で無言に終わらせる。これより社会の現実の厳しさを味わえるであろう。最後の句が取りさらされて、『嘗試集』第二版¹⁷に収録され、『嘗試集』第四版¹⁹では全体が削除された。しかし1923年に成仿吾は「詩之防御戦」で胡適の「人力車夫」について、「人力車の上に坐って貧富問題、労働問題を話す。まるで妓女を懐に抱いて世界を改造する夢を見るようである。」²⁰と批評している。成仿吾は「人力車夫」の内容を批評するとき、何も分析しないままでこのような評価を下す。これは理解しがたい評価の仕方だと思われる。

次に、「我的兒子」は18行が有り、「一顆遭劫的星」には20行が有る。「我的兒子」と「一顆遭劫的星」については第一段と最後の段を取り上げ、考察する。

「我的兒子」
我实在不要兒子，
兒子自己來了。
“無後主義”的招牌，
于今掛不起来了！
……
但是你既來了，
我不能不養你教你，
那是我对人道的義務，
并不是待你的恩誼。
将来你長大時，
莫忘了我怎樣教訓兒子：
我要你做一個堂堂的人，
不要你做我的孝順兒子。

「一顆遭劫的星」
熱極了！
更没有一点風！
那又輕又細的馬纓花須
動也不動一動！
……
大雨過後，
滿天的星都放光了。
那顆大星歡迎着他們，
大家齊說“世界更清涼了！”

「我的兒子」は18行を4段に分け、「一顆遭劫的星」は20行を5段に分けている。1917年に作られた「鴿子」と「人力車夫」と比べてみると、「鴿子」と「人力車夫」は一段だけである。1919年作られた「我的兒子」は一行一句で、内容を三段に分ける。第一段で胡適は「息子が要らない」という論点を出し、第二段で敷衍し、第三段で、親孝行な息子となるのではなく、「堂々とした人間として生きなさい」という結論を述べている。胡適は18行の詩を論文のような流れで作成し、一行に収められる内容を、一段で表している。行を跨ぐ句はないが、胡適は作詩の技法において進歩していると見える。

成仿吾は「詩之防禦戰」で胡適の「我的兒子」に対して、「まだこれは浅薄だとは言えない。ただつまらないと言うしかない」²¹と評価している。成仿吾は胡適の「我的兒子」にただつまらないと言い、どこがつまらないか、他になにも分析がない。胡適をはじめ、当時の知識人は結婚の不自由などの旧社会の現状に抑圧され、そのため女性の解放運動を提唱し、非人道的な纏足を非難し、礼教の親孝行に対して批判していた時期である。「我的兒子」は胡適の礼教についての批判だと言える。胡適の「我的兒子」が発表された後に、『新青年』第6巻第6号²²で唐俟（魯迅）の「我們現在怎樣做父親」、沈兼士の「兒童公育」、胡適の「我对于喪礼的改革」、吳虞の「吃人與礼教」が載せられ、礼教批判を展開している。

「一顆遭劫的星」は、胡適がずっと作りたい白話詩だと述べている²³。分析してみると、自由な形式で、20行を5段に分け、第一段と第三段の中で、行を跨ぐ句が各一つ有る。

「那又怪又細的馬纓花須
動也不動一動！」

「忽然一大塊黑雲
把那顆清涼光明的星圍住；」

1920年3月『嘗試集』初版を出版される前においては、胡適は中国伝統詩の「句」と「行」の規則に縛られており、行を跨ぐことが容易でなかったと分かる。第二編の詩では最初の「鴿子」と「人力車夫」と比べると、この点で「我的兒子」と「一顆遭劫的星」の変化が分かり、第一編の詩作と比べ、一つ階段を上ったことが実感される。

第二編の詩を調べると、三十二首の詩の中三首の訳詩を除いて、二十九首の詩の中で、行を跨ぐ句が有る詩は「送叔永回四川」の一句、「一顆遭劫的星」の二

つ、「蔚藍的天上」の二つという三つの詩で、詩の十分の一強を占めている。主に訳詩「関不住了」の後に、行を跨る句の詩がようやく出現する。

2.3. 第二編の西洋詩法の応用

第一編の詩には西洋詩法の応用方面で、鋸型の句の配列、「交韻」の応用がある。アメリカで第一編の詩を作った胡適は西洋詩の影響が有り、西洋詩の配列、西洋詩の押韻法を模倣している。第二編の詩の中で以上のような西洋詩法の応用が存在しているか否か、また新しい西洋詩法を応用したのか否か、を検証する。「自序」で胡適は、『藏暉室札記』第三冊の中での「自殺篇」の跋を引用する。

……吾が国の作詩は言外の意味を重視しない。だから説理の詩は極めて少ない。一人のポーブを求めても、多く得ることはできない。ましてワーズワース、ゲーテ、ブラウニングならいうまでもない。この篇は私の樂觀主義を入れている。全篇が説理の詩で、良いものではないが、しかしこの道はもう存在する。他日より多くこれを作れば、進歩するかもしれない。(民国三年七月七日)²⁴

胡適の跋によると、様々な詩人の作を読んで、形式と詩法を模倣したいというよりも、理を説く詩を重視すると言う。胡適はアメリカで哲学を学ぶと同時に、文学にも力を入れたため、胡適の詩は理を説くところに特色の一つがある。つまり、哲理詩は胡適の詩の内容に関する試みである。第二編において胡適の哲理詩の創作は、跋で書いたように多く作れば、進歩したのであろうか、「鴿子」、「人力車夫」、「我的兒子」、「一顆遭劫的星」を読み直して分析することにする。

まず『新青年』第4巻第1号で発表された「鴿子」と「人力車夫」を考察する。「鴿子」と「人力車夫」は第二編の『句』と『行』の規則で、取り上げたが、もう一度取り上げて見る。

「鴿子」

雲淡天高，好一片晚秋天氣！
有一群鴿子，在空中遊戲。
看他們三三两兩，
回環來往，

夷犹如意，——
忽地里，翻身映日，白羽襯青天，十分鮮麗！

「人力車夫」

“車子！車子！”車來如飛。
客看車夫，忽然心中酸悲。
客問車夫，“你今年幾歲？拉車拉了多少時？”
車夫答客，“今年十六，拉過三年車了，你老別多疑。”
客告車夫，“你年紀太小，我不坐你車。我坐你車，我心慘淒。”
車夫告客，“我半日沒有生意，我又寒又飢。
你老的好心腸，飽不了我的餓肚皮，
我年紀小拉車，警察還不管，你老又是誰？”……

胡適は「鴿子」が詞曲の味わいと韻律を脱け出していないと述べており²⁵、配列、言葉の使いなどから見ると、西洋詩法の応用がないと言える。「人力車夫」は第二行だけに心理描写が有り、それ以外は客と車夫の会話で構成されている。こうした会話は中国伝統詩の中には見られないもので、初めての作詩方法であると思われる。胡適の訳詩「老洛伯」²⁶ (Auld Robin Gray) の第七段を見ると、最後の一行は「却原来真是他，他說，“錦妮，我如今回来討你。”」である。「関不住了」の第一段全体と第三段の最後の二行も人の話で、詩に入られている。第二編の詩の中には、会話のままに詩に入れる技巧がよく有る。この点において、西洋詩法の応用があったと考えられる。

次に、『句』と『行』の規則の節と同じ、「我的兒子」と「一顆遭劫的星」のそれぞれの第一段と最後の段をもう一度取り上げ、考察する。

「我的兒子」
我实在不要兒子，
兒子自己來了。
“無後主義”的招牌，
于今掛不起来了！
……
但是你既來了，

「一顆遭劫的星」
熱極了！
更没有一点風！
那又輕又細的馬花須
動也不動一動！
……
大雨過後，

我不能不養你教你，
那是我对人道的義務，
并不是待你的恩誼。
将来你長大時，
莫忘了我怎樣教訓兒子：
我要你做一個堂堂的人，
不要你做我的孝順兒子。

滿天的星都放光了。
那顆大星歡迎着他們，
大家齊說“世界更清涼了！”

伝統的リズムの法則が見えず、韻を踏んでないし、行数も決まってないことからすれば、「我的兒子」と「一顆遭劫的星」は、胡適の自由詩だと思われる。内容の方面から見ると、「我的兒子」と「一顆遭劫的星」は二首とも哲理詩だと言える。「我的兒子」の第二段は父子の関係を木と実の関係に喩え、木には花が咲き枯れ偶然に実を結ぶ。だから父は息子に恩恵を施したものではない、という分かりやすい比喩である。魯迅の「我們現在怎樣做父親」で七ページを使って父子の関係を論述するのと比べ、胡適の「我的兒子」は経済的論述だと言える。哲理詩を作るのに容易であるとする胡適は、「一顆遭劫的星」で、序を付け、具体的な言論抑圧の事件のことを、一つの星が遮られることによって比喩する。だから、胡適は「談新詩」で、新詩の作法について具体的な作法（具体的な形象、あるいは具体的な形象による比喩）を用いて作らないと、よい詩に成らないと主張していた。哲理詩であれば、具体的な作法で作ると、分かりやすいと思われる。しかし、哲理詩以外の詩が具体的な作法で作れるか否かは、疑問視されている。しかし、哲理を説く詩を創作することに努力した点において、西洋詩法「説理詩」の応用を見ることができる。

3. 第二編の詩における伝統詩からの乖離

第二編の「鴿子」、「人力車夫」、「我的兒子」、「一顆遭劫的星」を取り上げ、リズム、「句」と「行」の規則、西洋詩法の応用という三つの尺度で分析してみた。リズムの分析によれば、「鴿子」は伝統的な五言の句が六分の一を占めている。「人力車夫」は伝統的な五言の句が四分の二を占めている。「我的兒子」は伝統的な五言の句が九分の一である。「一顆遭劫的星」は伝統的な五言の句が二十分の一である。「人力車夫」だけで、伝統的な七言の句が四分の一を占め、他の

三つの詩は七言詩のリズムと同じではない。「鴿子」と「人力車夫」は二首とも1917年の作であり、1919年の「我的兒子」、「一顆遭劫的星」と比較すると、中国伝統詩の五言、七言の句と同じリズムの句がなお存在し、少し影響が残っていると言える。

第二編の「鴿子」、「人力車夫」、「我的兒子」にはまだ行を跨る句がない。「我的兒子」は詩を四段に分ける。「一顆遭劫的星」は詩を五段に分けて、行を跨る句が有る。西洋詩法の形式面における応用は漸次進んでいる。また胡適は会話を詩に入れたし、哲理詩の創作において努力した。このため、第二編の詩作は中国伝統詩の影響が段々少なくなっていると言える。第一編では西洋詩法の応用は形式面で色々な試みがなされた。第二編では会話を詩に入れ、内容面において西洋の「説理詩」を模倣し、作詩している。また、胡適の自由詩は中国伝統詩からの乖離だと考えられる。

従って、三つの尺度で「鴿子」、「人力車夫」、「我的兒子」、「一顆遭劫的星」を分析した。1917年の「鴿子」は同年の「人力車夫」と比べて、伝統詩のリズムの影響が少ない。1919年の「一顆遭劫的星」は同年の「我的兒子」と比較すると、行を跨ぐ句がある。このことから削除された「人力車夫」、「我的兒子」は同年の詩作と比較した場合、新しい試みが少ないと言える。また、胡適は「人力車夫」に関する批評²⁷を重視し、見直した結果によって削除したと考える。

しかし第二編の詩の中で、詞牌の「如夢令」で作った詩がまだ一首有り、「生査子」の詞調で「小詩」という名前の詩が有る。胡適は詞に興味を示しており、だからこそ、「胡適之体」は詞の味わいが残っているのであろう。

注

- 1 季羨林主編、『胡適全集10』、安徽教育出版社、2003年9月第1版。『胡適全集10』に収録されたのは、「嘗試集」、「嘗試後集」、「集外詩」、「散文編」と「小説編」というものである。『胡適全集10』に収録される『嘗試集』は、上海亜東図書館に1920年3月から1922年10月の間に出版された四つの版に基づき、第四版に削除された詩も保留して編集されたものである。
- 2 『嘗試集』の第一編に関する考察は、拙稿「『嘗試集』の第一編について」（名古屋大学大学院国際言語文化研究科、『多元文化』第8号、2008年3月）において行った。
- 3 「再版自序」、1920年8月4日、『嘗試集』、上海亜東図書館再版、『胡適全集10』、季羨林主編、安徽教育出版社、2003年9月第一版、p.35。
- 4 「関不住了」、1919年2月26日、『新青年』第6巻第3号、1919年3月15日、『胡適全集

- 10』、季羨林主編、安徽教育出版社、2003年9月第一版、p.94。
- 5 「再版自序」、1920年8月4日、『嘗試集』の第二版、『胡適全集10』、季羨林主編、安徽教育出版社、2003年9月第一版、p.35。原文：这才是我久想做到的“白话诗”。我现在回头看我两年前做的诗，如：……真如同隔世了！
- 6 「四版自序」、1922年3月10日、『嘗試集』の第四版、『胡適全集10』、季羨林主編、安徽教育出版社、2003年9月第一版、p.44。
- 7 「鸽子」、1917年作、『新青年』第4卷第1号、1918年1月15日、『胡適全集10』、『嘗試集』、季羨林主編、安徽教育出版社、2003年9月第一版、p.73。
- 8 「人力車夫」、1917年11月9日作、『新青年』第4卷第1号、1918年1月15日、『胡適全集10』、『嘗試集』、季羨林主編、安徽教育出版社、2003年9月第一版、p.74。
- 9 「我的兒子」、1918年5月或いは1919年7月30日作、『胡適全集10』と『胡適全集43』の記載が違ふ。『毎週評論』第33号（1919年8月3日）で発表されたので、1919年の作だと考えられる。
- 10 「一顆遭劫的星、1919年12月17日、『嘗試集』、亜東図書館初版。
『胡適全集10』、『嘗試集』、季羨林主編、安徽教育出版社、2003年9月第一版、p.113～114。
- 11 王維、「相思」、『王力詩論』、「詩律」張谷編、広西人民出版社、1988年8月、p.101。
- 12 杜牧、「泊秦淮」、『王力詩論』、「詩律」張谷編、広西人民出版社、1988年8月、p.108。
- 13 「人力車夫」は『嘗試集』の第四版が8行であり、『新青年』第4卷第1号で最初発表された時、10行であった。次の「句」と「行」の規則で詳しく分析する。
- 14 戴望舒、「雨巷」、1927年、『中国新文学大系』第八集、詩集、香港文学研究社。
- 15 「四版自序」、1922年3月10日、『嘗試集』の第四版、『胡適全集10』、季羨林主編、安徽教育出版社、2003年9月第一版、p.45、原文：《鸽子》改了四个字。
- 16 胡適、「談新詩」、1919年10月10日、『星期評論』“双十節記念專号”、『胡適全集1』、季羨林主編、安徽教育出版社、2003年9月第一版、p.158。
- 17 胡適、「再版自序」、1920年8月4日、『嘗試集』の第二版、『胡適全集10』、季羨林主編、安徽教育出版社、2003年9月第一版、p.34。
- 18 『嘗試集』第二版、亜東図書館、1920年9月、『胡適全集43』、季羨林主編、安徽教育出版社、2003年9月第一版、p.292。
- 19 『嘗試集』第四版、亜東図書館、1922年10月、『胡適全集43』、季羨林主編、安徽教育出版社、2003年9月第一版、p.348。
- 20 成仿吾、「詩之防禦戦」、『創造週報』第1号、1923年5月、『成仿吾文集』、成仿吾編輯委員会編、山东大学出版社、1985年1月、p.77、原文：坐在黄包车上谈贫富问题劳动问题，犹如抱着个妓女在怀中做了一场改造世界的大梦。
- 21 同上、p.78、原文：这还不能说是浅薄，只能说是无聊。
- 22 『新青年』第6卷第6号、1919年11月1日、p.22、『中国现代文学期刊目録匯編』、唐沅、韓之友、封世輝、舒欣、孫慶昇、顧盈豐編、天津人民出版社。
- 23 「再版自序」、1920年8月4日、『嘗試集』の第二版、『胡適全集10』、季羨林主編、安徽教育出版社、2003年9月第一版、p.35。
- 24 「自序」、1919年8月1日作、『解放與改造』第1卷第1号、1919年9月1日、『胡適全集

- 10』、『嘗試集』、季羨林主編、安徽教育出版社、2003年9月第一版、p.17、原文：……吾国作诗每不重言外之意，故说理之作极少。求一扑蒲（Pope）已不可多得，何况华茨活（Wordsworth）、贵推（Goethe）与白朗吟（Browning）矣。此篇以吾所持乐观入诗。全篇为说理之作，虽不能佳，然途径具在。他日多作之，或有进境耳。（民国三年七月七日）。
- 25 「再版自序」、1920年8月4日、『嘗試集』の第二版、『胡適全集10』、季羨林主編、安徽教育出版社、2003年9月第一版、p.36、原文：例如「鸽子」一首，竟完全是词。
- 26 胡適、「老洛伯」、1918年3月1日訳、「Auld Robin Gray」、Anne Lindsay、『新青年』第4卷第4号、1918年4月15日、『胡適全集10』、季羨林主編、安徽教育出版社、2003年9月第一版、p.80～83。
- 27 注20により、「詩之防御戦」で成仿吾は胡適の「人力車夫」を指摘している。